

ここに希望あり

〔聖書〕イザヤ書 11 章1～10 節

エッサイの株からひとつの芽が萌えいで／その根からひとつの若枝が育ち その上に主の 霊がとどまる。知恵と識別の霊／思慮と勇気の霊／主を知り、畏れ敬う霊。彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。目に見えるところによって裁きを行わず／耳にするところによって弁護することはない。弱い人のために正当な裁きを行い／この地の貧しい人を公平に弁護する。その口の鞭をもって地を打ち／唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。正義をその腰の帯 とし／真実をその身に帯びる。狼は小羊と共に宿り／豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち／小さい子供が それらを導く。牛も熊も共に草をはみ／その子らは共に伏し／獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ／幼子は蝮の巣に手を入れる。わたしの聖なる山においては／何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように／大地は主を知る知識で満たされる。その日が来れば／エッサイの根は／すべての民の旗印として立てられ／国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く。

〔序〕大分訪問の恵み

先週の日曜日は大分教会の礼拝と午後村田悦牧師就任按手式に出席して、お祝いして来ました。11 日(土)午後 2 時に大分空港に着き、以前に札幌教会の教育牧師をしていただいた大塚九三子師の出迎えを得て、別府の老人ホームに元札幌教会の執事を永らくして下さった加藤勲・八重子夫妻(90 才・87 才)と一緒に訪問しました。私を固く抱きしめて喜んでくださいました。

加藤さんは北海道拓殖銀行勤務でしたが、教会のひかり幼稚園を学校法人化する時に、早めに定年退職して失業保険を受けながら幼稚園の専務理事となり、事務手続きの一切をとりまとめ、引き続き幼稚園の事務を担ってくださいました。私より年上の壮年会員が少ない札幌教会で、信仰と常識とを兼備えた意見を率直に語って私を支えて下さいました。

別府に引退してから韓国の万民中央教会李牧師の信仰に魅かれ、別府伝道所を開設して福音宣教に当たって来られました。近年若い牧師を迎えましたが今なお集會を忠実に守って居られます。私のために按手して心を注ぎ出してお祈りして下さい、大分まで車で送って下さいました。実にしっかりした運転で、私も主のお守りがあれば当分は大丈夫かなと自信をもらいました。

村田牧師の父修一兄はひかり幼稚園の第四代園長です。彼が大学を卒業して会社勤めをしていた時に、幼児教育の大切さを訴えたら、献身を決意してひかり幼稚園教師になり、働きながら教職課程を修得してくれました。そして大塚九三子園長が大分に帰られた後、園長職を継いで今日に至っています。ひかり幼稚園は 60 周年記念感謝礼拝を9月 28 日(日)に 350 名を超える出席者で守りました。

悦牧師は28才で私が名付け親です。今年3月に西南学院大学神学部を卒業し、大分教会に赴

任しました。按手礼式の準備資料も礼拝説教もしっかりしていて、頼もしい成長ぶりでした。嬉しい限りです。母教会の札幌からは、奥村牧師夫妻と代表執事浦瀬夫妻が出席しました。浦瀬夫人も私が札幌に赴任した時は小学科6年生。ひかり幼稚園の教師となり、根室から札幌に出て来た浦瀬 兄弟と結ばれて、一家で教会を支え続けています。土曜夜と日曜午後北海道の諸教会について、お二人と久しぶりにゆっくり話し合いました。

13 日は台風 19 号の接近で航空便は欠航、朝 4 時 45 分始発のJR特急で大分を発ち、小倉から新幹線に乗り換えて昼過ぎに無事帰って参りました。お祈りを有難うございました。

さて今週はいよいよ 25 日(土)26 日(日)と榎本譲先生を迎えての特別伝道集会です。先週集会案内チラシを近隣に配布する予定でしたが、印刷機が故障して印刷できませんでした。一昨日午後阿久津兄、昨日は飯塚兄が配布して下さいました。先月 27 日の第 18 回健康教室にチラシを見て石原町1丁目から 一人来会者がありました。嬉しかったですね。これまでの経験では、チラシを見てきて下さる方は殆どいませんでした。でも教会からの呼びかけは必要です。憩のみぎわ 40 号にお墓のことを書きました。家で読んで下さっています。次はクリスマスです。読んでいただけるだけでも結構ですから、教会からの呼びかけを続けて行きましょう。

[1] エッサイの株から

さて今日の聖書はイザヤの預言の第三回目です。10 章の終わりに万軍の主なる神が鉄の斧を振るって大木を次々と切り倒してしまわれたと記されています。これは南ユダ王国を含めて世界の諸国を神が裁いて滅ぼしていかれる様子を預言しているのです。かつて豊かな森だった所がすっかり切株だらけになってしまいました。滅亡と荒廃の光景です。イザヤ書当時の世界情勢については先週山下先生が説明されました。

ところが不思議なことに、このような厳しい神の裁きのなかにあって、一つの切株から新しい芽が萌え出て、すくすくと成長し始めたのです。それは神の憐れみによって「残された者」を指しています。私たちもその残された者の一員です。残された者としての私たちの責任について、山下先生は語られました。

その切株はエッサイの家の切株でした。マタイ福音書の最初に記されているキリストの系図は「アブラハムの子ダビデの子イエス・キリストの系図」という書き出しで始まります。アブラハムに始まりイエス・キリストに至る約 2000 年の歴史を系図で言い表したものです。その歴史の丁度中間点(BC 1000 年頃)にイスラエル統一王国を造り上げたダビデが位置するのですが、イザヤの預言では、ダビデの家の切株とは言わずダビデの父のエッサイの株からと言われています。どうしてでしょうか。

エッサイはごく普通の羊飼いでした。ダビデは彼の8人の息子の末っ子で、兄たちが戦に参加していても、独り野に残って羊を飼っている目立たない若者でした。それが神の選びによって豊かな力を与えられ歴史に名を遺す輝かしい王になりました。しかしダビデを含めてもろもろの王たちが造

り上げた世界の諸国が、神の裁きにあつて皆切り倒されて切株だらけになってしまったのです。

しかし神は、この荒廃した世界に全く新しい王を与えるとの預言をイザヤに与えて下さいました。それは輝かしいダビデの株からではなく、しがな羊飼いやエッサイの株から萌え出た若枝です。神の目は常に小さな者に注がれます。そしてその木に主なる神の霊が留まります。その霊とは知識と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り恐れ敬う霊です。具体的にどのような霊なのか、その説明が3～5節です。

「目に見えるところによって裁きを行わず、耳にするとところによって弁護することはない」。賄賂やうまい話とか、身なりや仕草、あわれな言葉で同情をそそり助けを受けようとする企みに惑わされないこと。「弱い人のために正当な裁きを行い、この地の貧しい人を公平に弁護する」。神を畏れる時に、正義と公平に立って、弱い者貧しい者を守る裁きが出来ます。「その口の鞭をもって地を打ち、唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる」。正義と真実をその身に帯びて、いささかも妥協せずに世を裁き導く時に、悪は打ちすえられて滅び、正しい支配・統治が国中にいきわたるのです。主役は人ではなくて神の霊なのです。

[2] 美しい平和

さて人間の世界にこのような平和がもたらされると、それは全被造物の世界にも及んで、美しい平和が生まれてきます。それが6～9節に記されています。「狼は小羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。牛も熊も共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる」。

自然界は弱肉強食の世界です。小羊、子山羊、子牛は狼、豹、若獅子の食べ物にされてきました。しかし平和な王の支配のもとでは、どの生き物も皆、草や干し草を食べようになり、一切の殺し合いはなくなるのです。どの生き物も共に宿り、共に伏し、共に育ちます。小さい子どもが彼らの世話をします。乳飲み子が毒蛇の穴に入って、一緒に遊びます。全地は神の愛に覆われて、人も生き物も全て、害を加えるもの、滅ぼすものは存在しなくなるのです。何という平和な世界でしょうか。

私たちは去る6月1日に聖書の第1頁創世記の天地創造を学びました。神が創造の業を始める以前の世界は、混沌・闇・深淵・水という言葉で表現されています。真暗闇でドロドロとした水で満ち、底なしの深い淵の状態で、足を踏み込めばたちどころに、底なしの滅びにのみ込まれてしまいます。生きていくことの出来ない無秩序で絶望的世界としか言いようのない状態でした。ですから命が存在しなかったのです。

しかし神の霊がその世界を覆い、「光あれ」との声が響きわたりました。絶望の只中に向かって、神が希望の光を放たれたのです。暗黒と混沌の世界に神は先ず、命と希望の象徴である光をもた

らしてくださったのでした。

神は水の中にも空にも地にも鳥や魚や動物等の生き物と、最後にご自分の姿にかたどって、人間を男と女に創造しておっしゃいました。「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものには、あらゆる青草を食べさせよう。」

皆さん。人間は、木の実と種を持つ草(穀物)を食べ物としていたのです。他の生き物は全て青草を食べて、共々に産めよ、増えよ、満ちよと祝福されて生きていたのです。神は創造された天地は、全ての生き物が互いに食い合うことをせず、共存・共和の世界だったのです。

この天地創造の文書は、紀元前6世紀南王国がバビロンに征服され、国王と重だつた者が屈辱的な捕囚生活を送っていた時期に書かれました。一方今日のイザヤの預言はその100年程前に語られています。しかし両者共に世界の全ての生き物が平和共存する神の支配を語っています。これはイザヤが100年後にイスラエルの民が国を失い、捕囚の地バビロンで神に祈り叫んだ信仰を、預言者の靈感で感じとっていたことを現しているのではないのでしょうか。

[結]先ず家族から

69年前に日本は原爆二発を投下されて無条件降伏しました。朝鮮、中国を手始めにアジア全域に15年にわたって侵略戦争を拡大し、大勢の人々を殺しました。戦争放棄を約束した平和憲法を制定し、民主主義国家を旗印に新しい歩みを始めました。先週山下先生が自分が受けた憲法教育を語っておられましたね。しかし今日の日本の状態は、イザヤの示す平和国家とは全くかけ離れています。

一昨日も大学生が人を殺したくなったとあって、コンビニでバイトをしている女子学生を帰り道で襲って刺殺しています。札幌では女子高校生が嫉の厳しい祖母と母を刺殺しました。貴い命をどうして簡単に殺してしまうのでしょうか。20代の死者の半数は自殺者です。

どんなに教育に力を注ぎ経済を豊かにしようとしても、神を畏れ敬う霊が欠如している限り、命を大切にせず皆で仲良く暮らす平和は生まれません。しかし神を畏れるといっても、自分と同じ信仰を持たない者は殺してもよいとする宗教も狂っています。

「エッセイの根はすべての旗印として立てられ、国々はそれを求めて集う。そのとどまるところに栄光は輝く」(10節)。イザヤが預言した真の平和の王は、それから約700年後にエッセイの子孫ヨセフの子イエスとしてベツレヘムの馬小屋で誕生されました。霊に満たされた言葉と業とによってご自分が救い主キリストであり、真の平和を世界にもたす王であることを示されました。

そして「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」(ヨハネ 15:14)とおっ

しやり、全ての人の罪を一身に引き受けて十字架の死を遂げられました。このお方を私の救い主として信じる時に、このお方に満たされている神を畏れ敬う霊を頂くことができます。そして弱い人、貧しい人を守る者にされていきます。友のために命を捨てる愛をいただき、互いに愛し合い、仕え合って神の平和を造り上げていく者に変えられていくのです。

私たちが変えられていく時に、動物や鳥や魚たちまでもが命を奪い合うことをやめ、全被造物の共存・共和の平和が回復すると約束されています。9節をご覧ください。「わたしの聖なる山においては、何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。水が海を覆っているように大地は主を知る知識で満たされる」。

私たちの家庭が平和の王をお迎えして、主を畏れ敬う霊を頂く家庭になりたいものです。家族の中から、自分の命・他人の命を損なう者が出たら、私たち はどんな思いに突き落とされるでしょうか。本当に恐ろしいですね。家族皆が愛し合い喜び合う家庭になりたいものです。

そうしたら全ての生きとし生けるものが皆仲良く共に暮らしていく平和な世界がもたらされるのです。神はこのような平和を、イザヤを通して約束してくださっています。

エッサイの株から萌え出た若枝、主の霊が豊かにとどまる救い主、このお方にこそ美しい真の平和、全世界の平和の希望があります。十字架のイエス・キリストを救い主と信じましょう。愛する家族も一緒に信じてもらいたいものです。

そのために心を注いで祈りましょう。何とかして家族一緒に礼拝を守りたいですね。今週の土曜日、日曜日の特別伝道集会に出席していただきたいですね。心を注いで祈り続けましょう。

お祈りします 神さま、あなたは今日も、エッサイの株から萌え出た救い主によって、天地の生きとし生けるもの全てが、仲良く愛し合って生きていく真の平和な世界をお与え下さると約束して下さいました。有難うございます。ここに希望があります。救い主イエスさま、貴方を信じます。私たちをもその平和のためにお用い下さい。イエス・キリストの御名によってお祈りします。 アーメン